

# 令和 5 (2023) 年度入学者選抜小論文試験問題(前期)

(口腔保健学科口腔保健衛生学専攻)

(口腔保健学科口腔保健工学専攻)

各受験生は指定の問題に解答すること

## 注 意 事 項

1. 監督者の指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。
2. 問題冊子は全部で 14 ページあり、第 1～4 ページは下書用紙です。下書用紙は切り離してはいけません。
3. 解答用紙は、問題冊子と別に印刷されているので、誤らないように注意しなさい。
4. 解答は、必ず解答用紙の指定された欄内に**横書き**で記入しなさい。
5. 各解答用紙には、受験番号欄が 4 か所ずつあります。それぞれ記入を忘れないこと。
6. 解答用紙は、記入の有無にかかわらず、机上に置き、持ち帰ってはいけません。問題冊子は持ち帰りなさい。
7. 落丁または印刷の不鮮明な箇所があれば申し出なさい。



問題 I (前期・共通)

下書用紙

設問 2

5

10

15

20

25

A large grid for writing, with a solid border and dashed internal lines. The grid is 25 units wide and 15 units high. The top edge has numerical labels 5, 10, 15, 20, and 25. The left edge has numerical labels 5, 10, and 15.

(400字)

問題Ⅱ（前期・口腔保健衛生学専攻）

下書用紙

設問 1

5

10

15

20

25

5

A grid for writing answers, consisting of 25 columns and 5 rows of squares. The grid is bounded by a solid line on the top, bottom, and right sides, and a dashed line on the left side. The top edge has numerical markers at 5, 10, 15, 20, and 25. The left edge has a numerical marker at 5.

(200字)

問題Ⅱ（前期・口腔保健衛生学専攻）

下書用紙

設問 2

5

10

15

20

25

5

10

15

(400字)











## 設問2

本文の内容を踏まえて、傍線部に述べられたデジタル化について「日本は今や世界の最先端から大きく遅れた」ことと具体例と、その解決策についてあなたの意見を述べなさい(四〇〇字以内)。







に、二つの総和の差が、当然ながら、一番最後に足された奇数にほかならないことにも気づく必要がある。言い換えれば、最後に加えられる一番大きな数が両者の平方の差に等しくならなくてはならない。

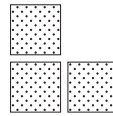
同じことを視覚言語で考えてみよう。それまでの奇数の和に次の奇数が加えられるとき、全体の和がその足される奇数に付された序数の平方になることを示せばよいわけである。

一番目の奇数は1。これを単位方形1個で表す。



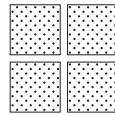
1

二番目の奇数は3。これを単位方形3個で表す。



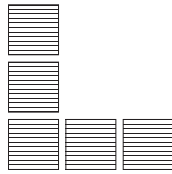
3

二つの図形を合わせる。



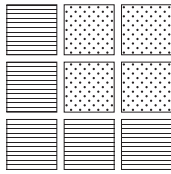
1 + 3 = 4

三番目の奇数は5。これを単位方形5個で表す。



5

これを前の図形に加える。



1 + 3 + 5 = 9

すなわち、4足す5は9。

以下同様。このような視覚的表現によれば、序数と基数との関係や数列加算のしくみが、一望の下に捉えられる。

ここで何が起こったのか？ まず、幾何学の体系を使つてなぞらえたことにより、単に機械的なトリックであったものが、どんなしくみで一つのルールなり演算則になりえたのか、ということの理解が断然容易になった。もっと重要な点として、生徒が、トリックを適用することとそのトリックが成り立つ必然性を理解することとの大きな違いを意識させられたということが挙げられる。さらに<sup>②</sup>もっと重要なのは、生徒が、おそらく自分でも気づかぬうちに、算数で、語ることから算数を語ることへ——数に囲まれた世界から数の数を扱う世界へ——飛び移る経験を持ったということだろう。

(グレゴリー・ペイトソン著『精神と自然——生きた世界の認識論』二〇二二年より)

## 設問 1

傍線部①で「生徒たちは何を学んだと言えるのか？」とあるが、生徒が学んだと考えられることについて、筆者の考えに沿って書きなさい(二〇〇字以内)。

## 設問 2

傍線部②で筆者は「さらにもっと重要なのは」と述べています。筆者がなぜこう考えるのか、可能ならば自分の経験をもとに具体例を挙げ、その理由について自分の意見を書きなさい(四〇〇字以内)。

